

# 『変わりゆくラダックに暮らして』

ラダックは、ヒマラヤ北部に広がる厳しくも美しい山里です。そこに暮らす池田悦子さんが一時帰国されるのにあわせて、講演会を企画します。20年前からインドに通い続けている池田さんは、2008年にラダック人の男性と結婚して、ストックという農村に住んでいます。その後も出産のために日本へ戻る時期があって、子育てなどを通して日本とラダックを比較しながら伝えたいことがたくさんあるといいます。

1974年まで外国人の入域が禁じられ「秘境」といわれたラダックですが、その後は近代化や国境紛争等によってライフスタイルが急速に変化。講演会では、持続的な暮らしぶりや信仰など美しい伝統をご紹介いただくとともに、近年の変化や問題にも焦点をあてて等身大のラダックをお話しいたします。

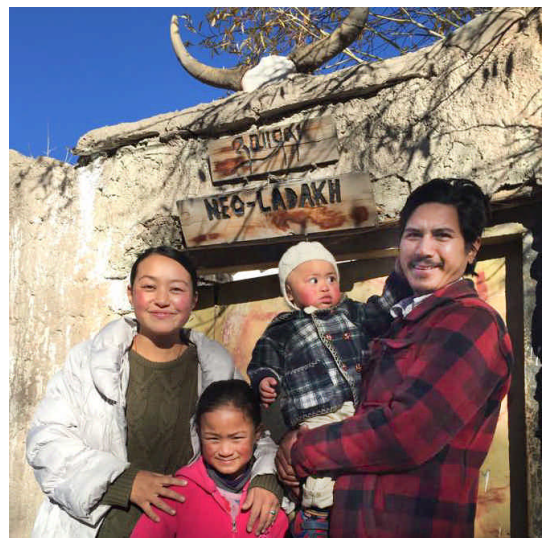
「自然と共にある生き様」が生涯のテーマという池田さんは、ラダックでの暮らしに何を見つめているのでしょうか。現地に住んだからこそわかる真実を、池田さんの視点で語っていただきます。

- 日時： 11月29日(日) 14時～16時頃
- 会場： 月島区民館 (5号室)  
(中央区月島 2-8-11、地下鉄月島駅から徒歩2分)
- 講師： 池田悦子さん (ストック村在住)
- 会費： 1,000円 (学生とラダック人 500円)
- 主催： カワカブ会 (連絡先は下記)

\*池田さんの体調によっては日時を変更することがあります

\*facebookのイベントページにも詳細を載せています

<https://www.facebook.com/events/1674770726094535/>



## 【池田悦子さんのご紹介】

インドに魅せられて、先住民族を支援しながら「自然と共にある生き様」から人生の知恵を得ようと10年以上活動する。同時に日本人に向けてスタディーツアーなど幅広い学びの場を企画。

2007年に新天地を求めてラダックへ。その後ラダック人と結婚し二児の母に。夫婦で旅行会社「ネオ・ラダック」を立ちあげ、トレッキングガイドなどを手がける。ご主人の生家の古民家を改修して、自ら住みながらホームステイを受け入れている。月刊「クーヨン」に『天空のラダックに暮らす』を連載(2012～'13年)。 <http://neo-ladakh.blogspot.jp/>

\*写真上：池田さん(左)とご家族。自宅の古民家の前で

\*写真左：池田さん家族が暮らすラダックのストック村

(どちらも池田さん提供)

【カワカブ会】 梅里雪山(チベット名:カワカブ)を中心に、ヒマラヤ・チベットの自然と聖地に関する情報を発信して、ともに学ぶ集い。聖地を訪ねる旅や講演会を企画する。来年は茶馬古道、ザンスカルの旅などを計画。  
(連絡先) 横浜市青葉区鴨志田町 569-1-21-508、Tel・Fax:045-507-5677、[bakoyasi@gmail.com](mailto:bakoyasi@gmail.com)

〈小林尚礼〉 カワカブ会主宰。人間の背後にある自然をテーマに撮影執筆を行なう。主著『梅里雪山 十七人の友を探して』、共著『生老病死のエコロジー』等。京都大学大学院(環境工学)修了。学士山岳会理事。